



公開講座レター

No.13



地域創造支援センターでは、公開講座の取り組みを広く知っていただくため、実施した公開講座の様子や参加者の声をお届けする「公開講座レター」を発行しています。

今回は、9月から11月にかけて実施された公開講座「日本の「人魚」像 -『日本書紀』からヨーロッパの「人魚」像の受容まで-」、「世界の文学、日本の文学」、「グリム童話の世界」の3講座の様子をお届けします。

講座名 ▶ 日本の「人魚」像-『日本書紀』からヨーロッパの「人魚」像の受容まで-

開催日 ▶ 9月7日（土）、14日（土）、21日（土）、28日（土）
14：00～16：00

講師 ▶ 福島大学名誉教授 九頭見和夫先生

講座の概要

小川未明『赤い蝋燭と人魚』、アンデルセン『人魚姫』等特に文学作品に焦点をあて、文化交流の観点から、日本の「人魚」像について解説いただきました。人々は何を見て「人魚」と考えたか、「人魚」の実像についても合わせて学びました。

各回の内容

9/7 江戸時代の「人魚」像

9/14 江戸時代以前の「人魚」像

9/21 明治時代以降の「人魚」像

9/28 「人魚」の実像考

講座の様子



参加者の声

- 日本の昔の人魚は半魚人みたいなものかと思っていましたが、オオサンショウウオが出てきたのはびっくりしました。各時代の様々な人魚を知ることができて面白かったです。
- 資料が分かりやすく、興味深かったです。
- 個人では集められない様な情報を多く教えていただき楽しく受講できました。
- 同じ講座を4回に分けて実施したのは大変良かった。

講座名

世界の文学、日本の文学

開催日10月5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土)
14:00~16:00**講師**福島大学名誉教授 九頭見和夫先生/山形大学名誉教授 早川正信先生
日本大学教授 佐藤 彰先生/ヘブライ文学研究所代表 梶山義次先生**講座の概要**

今回は、文学作品の中からシェイクスピア、グリム、アンデルセン、宮沢賢治等の作品をとりあげ、それぞれの作品が作られた時代背景、作者の生い立ち、世界観、そして近年の研究成果などについて解説いただきました。

各回の内容

10/5 アデルと日本の作家たち—宮沢賢治、小川未明を中心として— (九頭見先生)

10/12 シェイクスピア『リア王』の世界 (早川先生)

10/19 宮沢賢治とダンテ『春と修羅』と『新生』をめぐって— (梶山先生)

10/26 グリム童話の世界 (佐藤先生)

講座の様子**参加者の声**

- 日常生活ではなかなか触れることのできない文学の世界を深く解説していただいた講義内容で、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。
- 今回受講したことをどうつなげ、発展させたらいいかもっと受講したくなった。
- 一つの講座でテーマごとに講師の先生が変わってとても楽しかったです。本を読むだけでは分からない時代背景もとても興味深く、勉強してよかったと思いました。
- 講師の先生方が丁寧にお話ししてくださり、心が打たれました。

講座名	グリム童話の世界
開催日	11月2日(土)、9日(土)、16日(土) 14:00~16:00
講師	日本大学教授 佐藤 彰先生

講座の概要

2012年から2015年の3年間はグリム童話出版200年祭にあたります。本講座では、グリム童話ができるまでの過程、グリム兄弟の生い立ち、また、グリム童話収録話数210のうち代表的な作品の内容や時代背景について詳しく解説いただきました。受講生は熱心に先生のお話聞き入っており、終始和やかで楽しい雰囲気講座となりました。

各回の内容

11/2 グリム兄弟生誕 200年

11/9 グリム童話と映画

11/16 グリム童話の真実

講座の様子



参加者の声

- 歴史的背景を知ることができ、またグリム兄弟についても知ることができて満足でした。
- DVDを取り入れてくださったり、一般レベルが理解し易いように考えてお話ししていただけたと思います。
- グリムの知らない世界を勉強させていただき大変参考になりました。
- 時折、ドイツ語を読んでくださったり、たくさんの資料を見せていただいたり、改変されていく様子など解説していただいたりと、楽しい授業を受講させていただきました。
- 10月から4回にわたり、グリム童話を受講し、大変興味をもって受講できました。
- プリント類の活字が大きくてよかった。